

令和3年度三田市高校生議会 質問書

【質問者】 13番 三田祥雲館高等学校2年畑 亮兵（はた りょうへい）

【担当課】 学校教育部 教育研修所

【答弁予定者】 教育長

【質問事項】 平和教育の新たなカタチについて

【質問内容】

13番 高校生議員の三田祥雲館高等学校2年の畑 亮兵です。私からは平和教育の新たなカタチについてお伺いします。

私は学校の授業を通じて平和教育について研究しています。現在三田市では、教育委員会から市内の小・中学校全体に向けて統一した平和教育の指導方針などは策定されておらず、各学校で平和教育に取り組んでいます。例えば小・中学校では、修学旅行先に広島、長崎、沖縄を選んでおり、平和教育とからめて実施しています。国語科、社会科、総合的な学習の時間でもテーマによって平和学習を取り入れているところもあるようです。しかし、全国的に見れば、沖縄での修学旅行中に生徒が資料館の職員に暴言を吐いた事件など、平和を祈念する施設において若い世代の悲しい事件が増えています。

一方、現在平和教育を担う立場である学校教員、保護者、地域住民の多くが実際に戦争を経験していない世代となってきました。私はこれらの現実を知り、驚きと共に平和教育に対して危機感を覚えました。命の尊さ、平和の大切さ、戦争の悲惨さを地域・家庭・学校など社会全体で若い世代にうまく伝えられていないのではないかと考えたからです。また、私たち若い世代が積極的に平和な社会を作っていく力があるのかも不安に思いました。

そこで対策として、学校では小学4年生から中学3年生までの6年間で平和教育プログラムを実践する、年1回の校外学習を行うなどを市が取り決め、全体で取り組んでいくことが必要だと考えました。平和教育を長期的、継続的に行うことで発達段階に応じて学ぶことが可能です。また校外で体験する機会を増やすことで身近に感じ、様々な考え方を養うこともできます。同時に保護者を含めた取り組みも重要だと考えます。例えば、レポート課題に保護者のコメント欄を設けるなどの工夫をするだけでも家庭で平和について話す機会を増やすことができると考えます。さらに、三田市が開催する「平和を考える市民のつどい」に児童・生徒・保護者や地域の大人が参加し、過去の学習に加えて、「将来」の平和を「能動的」に作っていける人を育てるために、Peace of cake のようなカードゲームで平和の作り方を学ん

ではどうでしょうか。例えば小中学生・高校大学生・大人が3人一班となってプレイヤーを演じることで世代間の意見交換も生まれます。そして、他の班と交渉することになります。

これからは、過去に学ぶことに加えて、未来の平和を作る力を育成することも大切だと考えます。そのためにも、家庭・学校・地域が一体となって平和の作り方を考える場が必要だと考えます。

日本にとって平和は特に意味のあるものです。国を支える世代が平和の意義を知り、平和な社会を築いていくためにも、これらは必要だと考えます。

以上のことにつきまして、市のお考えをお聞かせください。

【答 弁 内 容】

私からは、畑議員ご質問の「平和都市の新しいカタチ」についてお答えします。議員ご指摘のように、平和な社会を築いていくためには、学校における平和教育の推進を通して、家庭・学校・地域がともに平和について考えることは、重要であると認識しております。

三田市としては、この観点から「三田の教育（指導の重点）」において、“グローバル化が進む社会で子どもが生き抜くために、英語によるコミュニケーション能力や情報活用能力を育むとともに、異なる文化や価値観を理解し、国際社会の平和や発展に貢献する態度の育成に取り組む”と示しております。

そして、「平和教育」に特化したプログラムを策定しているものではありませんが、平和教育をはじめ、人権教育、性教育、防災教育といった課題教育については、関連する各教科単元、特別活動や総合的な学習の時間などを活用して、教科横断・縦の系統に留意した教育課程を編成し、学校教育活動全体を通じて行っているところです。

また、授業参観なども活用して、学習の様子を保護者に積極的に発信し、家庭でも平和について話題にし、考えていただく機会としています。

各学年における校外学習については、当該学年の学習内容に関係するものを選定し、義務教育9年間で様々な体験や学習ができるように、各学年において設定されています。

畑議員のご提案の平和学習についてですが、先に述べた教育課程において、平和教育を推進するために大切となる多様な文化や価値観を理解したり、個々の多様性を認め、互いに尊重したりできるようにし、様々な学習活動を通して継続的に取り組んでまいります。

次に、「平和を考える市民のつどい」でのカードゲームによる平和学習のご提案について、お答えいたします。

「平和を考える市民のつどい」については、平成元年3月28日に、三田市が「非核平和都

市宣言」を行って以来、市民参加のもと平和の意義や尊さを考える取り組みとして、毎年8月の「平和について考える市民月間」に、三田市遺族会や丹有原爆被害者の会などの市民団体等で構成する実行委員会の主催により毎年開催しています。

その内容については、小学生による平和の歌、戦争体験者による講演、平和の鐘、展示としてパネル展、平和新聞展としており、年々、戦争体験者が少なくなる中で、戦争や原爆などの悲惨さを生の声で伝えていただき、市民が平和の意義や尊さを考えることを目的としています。

ご提案の Peace of cake（ケーキを公平に切り分けるにはどうしたらよいか）のようなカードゲームについては、様々な世代の参加のもと、平和的に物事を解決する方策として有効であると考えますが、「平和を考える市民のつどい」においては、先ずは、戦争や原爆などの悲惨さを市民の皆さん自身が考え、次世代につないでいくことが必要であると考えますことから、「平和を考える市民のつどい」とは別の場、別の機会として、学校での学習の一つとして、また、市の人権企画講座などで参考にするとともに、子どもたちや市民の皆さんに未来の平和を考えていただけるような場を検討してまいりたいと考えています。

今後は、ICT 機器等も活用し、社会・世界とつながっていく学習活動の実践、家庭・地域との連携により、子どもたちが主体的に学び、学んだことを自らの人生や社会に生かそうとする態度、多様な価値観や異文化を尊重できる心を一層育み、平和を大切に作るさんだっ子の育成に向けた教育を推進してまいります。

「死に損ない」長崎被爆者に 修学旅行中の中学生が暴言

修学旅行で5月に長崎を訪れた横浜市の公立中学校3年の男子生徒数人が、爆心地周辺を案内していた被爆者で語り部の森口貢さん(77)に対して「死に損ない」などの暴言を発し、森口さんが学校に抗議していたことが6月7日、分かった。

朝日新聞から抜粋2014/06/07 13:51

平和教育の新たなカタチ

NO. 472

平和30周年
国際人権学生スター入賞作品

1949年
国際人権学生
70周年

人権とは、みなさんに人権に関する気づきや情報などを届けたい。様々な
観点や興味したことを書いてください。ご感想も人権推進までお寄せください。
問い合わせ先：国際人権学生スター入賞事務局
059-5145 FAX03-3779-7メールアドレス: jshhs_white_star@ic.ac.jp

三田市長
世界に広がる
平和な心
世界平和推進
協議 会長

三田市教育
長 三田 浩二

三田市立第一中学校
校長 三田 浩二

平和を考える市民のつどい

開催日：8月5日(日)
13時30分～16時

総合福祉保健センター 多目的ホール

～今、平和の誓いを次世代につなぐ～

物では、戦争一掃と謳った平和記念式典(こゝろを繋ぐ)、平成28(2016)年に開催された平和記念式典、平成30年8月を「平和について考える
る記念月」として、平和の意義や誓いについて気づき、考え、伝える機会として「平和を考える市民のつどい」を開催いたします。

・定員：当日受付より先着300人
・参加費：参加費を要していません。
・申し込み：7月20日(金)までに、電話またはFAXでの予約が必要です。
・問い合わせ：市人権推進課 059-5145 FAX: 562-7710

講演会 「私の戦争体験 ～子どもたちに平和な未来を～」 14時30分ごろ

講師 三田 浩二 さん

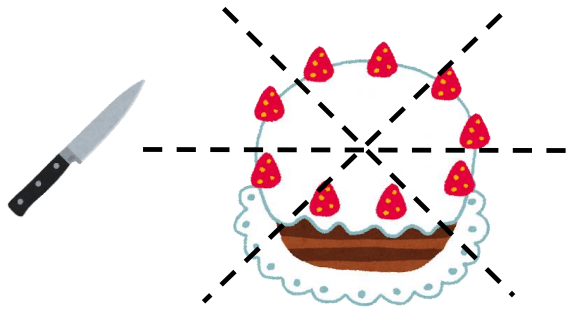
1949年に佐賀県佐賀市生まれ。1964年4月29日生。『アソビ』『新しい出版』『経済』など、雑誌記者時代に30年ほど三田、三田新聞社勤務。現在はフリーランスのライターとして活動中。1985年に三田新聞社に入社して以来、三田新聞社の記者として活動中。1995年に三田新聞社を退職してフリーランスのライターとして活動中。1995年に三田新聞社を退職してフリーランスのライターとして活動中。

1949年に佐賀県佐賀市生まれ。1964年4月29日生。『アソビ』『新しい出版』『経済』など、雑誌記者時代に30年ほど三田、三田新聞社勤務。現在はフリーランスのライターとして活動中。1985年に三田新聞社に入社して以来、三田新聞社の記者として活動中。1995年に三田新聞社を退職してフリーランスのライターとして活動中。

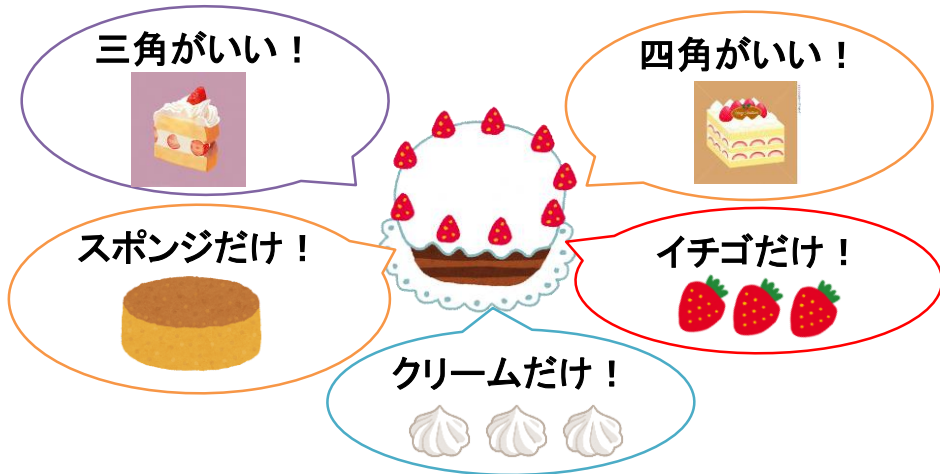
1949年に佐賀県佐賀市生まれ。1964年4月29日生。『アソビ』『新しい出版』『経済』など、雑誌記者時代に30年ほど三田、三田新聞社勤務。現在はフリーランスのライターとして活動中。1985年に三田新聞社に入社して以来、三田新聞社の記者として活動中。1995年に三田新聞社を退職してフリーランスのライターとして活動中。

Peace of Cake

争わずにケーキを分け合うゲーム



同じケーキでも



三角が良い人もいれば四角がいい人もいる

私たちの班は四角がいい！



異なる世代の意見

班として一つにまとめて提示

人それぞれ考え方が違う



争わずに話し合いで解決する



未来の平和を作る力

世代を超えて楽しみながら学べる！



地域の皆で
平和の作り方を考える！